

「障害者の生涯学習活動を支える人材に関するアンケート」結果概要②  
—アンケート結果から見る障害者の生涯学習推進を担う人材に必要なスキルについて—

◆障害者と障害特性、障害者を取りまく事情への理解◆

【エピソード】

- ・障害者とのコミュニケーションに苦慮

【学習者の変化・声】

- ・安心感→講師に

【スタッフの変化・声】

- ・安心できる居場所づくり、気軽に集い活動できる場
- ・「やりたいことをやる」「やりたくないことはやらなくていいよ」
- ・無理矢理に誰かを学びの場に参加させることはしてはいけない  
(→その場にいる人みんなの活発な参加を促すスキルとは別の考慮が必要な場合も)
- ・支援者の「よかれ」がちぐはぐな結果に
- ・どのような支援が必要か知りたい
- ・障害者個々の特性の理解
- ・障害のある人との距離感やコミュニケーション
- ・特別支援学校退職ボランティアは、それぞれの人が力を引き出せるような働きかけ

【連携に重要なポイント】

- ・当事者のおかれている社会的課題の共有

【その他御意見】

- ・障害理解はもとより、障害者の生活全般について理解を進めることが必要
- ・「障害の有無に関わらず、誰でも、誰とでも」という方針でやっているが、障害種・障害の程度に応じた分離型のプログラムを求める声も
- ・人材育成も、「誰とでも」という視点でやっているが、障害種別や程度に応じた支援ができる専門的な知識・技能が必要との意見も
- ・対象：青年期？ 中年期？ (→ライフステージに対応した課題の理解)
- ・障害への理解・啓発は幼少期から全世代にわたって必要
- ・学生時代から関与が大事
- ・元作業所職員や元特別支援学校教員に担い手となってもらうためのシステム

◆障害者の自己決定を支えるコミュニケーション力◆

(自己決定の基礎となる情報を伝えるスキル・意思表示を理解し発信を助けるスキル)

【特徴・工夫】

- ・障害者相互の学び合い・教え合い
- ・当事者の発案・選択によるプログラム

【エピソード】

- ・障害者とのコミュニケーションに苦慮
- ・当事者へのアンケートは迎合・同調傾向があり評価が困難

【学習者の変化・具体的な「声」】

- ・難しくわからない内容でも、メンターや先生が声をかけてくれてわかりやすく勉強できた
- ・重度障害者のスイッチ遊びエピソード  
(→反応から本人の意思を読み取るスキル)

### 【スタッフの変化・声】

- ・当事者の声を大切にするという認識
- ・障害のある人との距離感やコミュニケーション
- ・「やりたいことをやる」「やりたくないことはやらなくていいよ」
- ・支援者の「よかれ」がちぐはぐな結果に
- ・自分の言葉がいかにあいまいだったか感じた
- ・誰にでも回答しやすいアンケート形式を探るプロセスが勉強に
- ・特別支援学校退職ボランティアは、それぞれの人が力を引き出せるような働きかけ

### 【連携に重要なポイント】

- ・当事者とのコミュニケーション力、当事者の思いを形にする表現力、それを他者に納得してもらう説得力、その行動を広げられる浸透力、それら行動に対する他からの信頼性
- ・当事者主体のネットワーク形成
- ・会議に複数名の当事者委員
- ・当事者のおかれている社会的課題の共有
- ・当事者に届く情報提供の有り方も検討

### 【取り組みを持続させるために必要なこと】

- ・障害者を含めた学びの当事者の意欲によって運営されること

### 【その他御意見】

- ・当事者の学びのニーズは多岐にわたる
- ・コミュニケーションと人間力、寛容性と変化に柔軟に対応できる人

## ◆障害者当事者の講師・コーディネーター等／循環型生涯学習◆

### 【特徴・工夫】

- ・講義に当事者を交えた
- ・障害者相互の学び合い・教え合い
- ・障害当事者の指導者・有識者・専門職が講師
- ・障害当事者による支援コーディネート

### 【学習者の変化・具体的な「声」】

- ・聴覚障害者同士のWS継続を望む声
- ・自分と同じ境遇にある人の居場所を作りたいという考えが生まれた
- ・当事者による議論の場の設定や学びたい講座準備
- ・安心感→講師に

### 【スタッフの変化・声】

- ・当事者コーディネーター・当事者専門職講師が効果的
- ・当事者が「先生」になる機会の大切さ
- ・精神障害者スタッフの参加により、当事者に寄り添った運営

### 【連携に重要なポイント】

- ・当事者コーディネーター・当事者指導者を増やすことで、ひきつけられる当事者が増える
- ・当事者主体のネットワーク形成
- ・会議に複数名の当事者委員

### 【取り組みを持続させるために必要なこと】

- ・障害者を含めた学びの当事者の意欲によって運営されること

### 【その他御意見】

- ・障害者自らが障害の充実について考え、実現させようとする環境を作ることにより学びの継続性
- ・ピアサポーターの貢献度大／ピアサポーターの養成にも貢献できた

## ◆情報保障／一般講座等との接続◆

### 【学習者の変化・具体的な「声」】

- ・スキルアップやキャリアアップ、資産運用等の口座のニーズ
- ・オンライン会議の中に情報保障を入れる方法の確立
- ・大学におけるインクルーシブプログラム  
(→大学の講義等をインクルーシブなものとして構成するノウハウ的なものがあれば有用?)

### 【その他御意見】

- ・健全者との生涯学習との連動

### 【その他御意見】

- ・高等教育機関に障害者がオープンに参加できる連続公開講座

## ◆人・組織・事業等を「つなげる」◆

### 【特徴・工夫】

- ・地域活性化イベントでの活動(→地域課題との結びつけ力)
- ・地域の人々の参加(→地域をまきこむ力)

### 【周知】

- ・特別支援学校への周知(同窓会・PTA)
- ・学校在学中からの社会教育施設利用の呼びかけ

### 【スタッフの変化・声】

- ・行政部門の連絡調整が思い通りにいかない
- ・教育・福祉・地域相互の立場を理解した上でのコーディネート
- ・地域でのイベントへの参加・さまざまな団体や場との広がり

### 【連携の意義や課題】

- ・民間と力を合わせた予算の確保
- ・どのような団体と連携するか
- ・行政の力が必要
- ・民間団体の特性を生かした生涯学習の場づくりのノウハウ
- ・最初、どの部署との連携が効果的かわかりにくい
- ・予算の確保に関する熱意
- ・連携する機関のお互いの事情を理解した上でよりよい展開を模索できた
- ・民間団体と行政の連携は不可欠

### 【連携に重要なポイント】

- ・ニーズ把握
- ・発信力のある人に委員委嘱をすると広まる
- ・教育と福祉の連携には、頻繁な行き来や情報交換が効果的
- ・連携のモデルがあること
- ・事業推進者が関係団体の活動内容を十分に理解し、学習者とマッチング
- ・連携でできることがあると団体に示し、連携の機運の醸成
- ・認識や問題意識の共有
- ・関わることによる具体的なメリットの提示

### 【取り組みを持続させるために必要なこと】

- ・顔の見える関係づくり

## ◆発信力（ICT等、手段のスキルも含め）◆

### 【特徴・工夫】

- ・コロナ禍によるオンライン化

### 【連携の意義や課題】

- ・理解啓発が進んでいない現状で地域で大きな動きは作れない

### 【連携に重要なポイント】

- ・発信力のある人に委員委嘱をすると広まる

### 【取り組みを持続させるために必要なこと】

- ・特別支援学校児童生徒や保護者への周知

### 【その他御意見】

- ・障害への理解・啓発は幼少期から全世代にわたって必要
- ・SNS等→ネットに強い方が抜けてしまい止まってしまう
- ・「情報発信」と「交流の場」が継続的にあり続けること
- ・障害の重い人にはリモートや動画配信

## ◆障害者の生涯学習の意義等に関する理解◆

### 【スタッフの変化・声】

- ・『学びのレディネス』不足の状態を解消
- ・高等部の勉強は仕事の練習ばかりで嫌いという利用者の声
- ・大学の実習やサークル活動では「支援者」という立場から離れることはなかったが……  
(→学校教育的でない学びについての理解)

### 【連携に重要なポイント】

- ・障害者が生涯学習の主体であることを本人・家族・学校・福祉事業所が認識すること

### 【取り組みを持続させるために必要なこと】

- ・国の施策の意図を事業実施者に正しく伝える
- ・事業の継続の意義を社会で共有し、事業を意味づけ、支える制度が生まれること
- ・関係省庁からの政策的根拠の発出

## ◆事業実施・継続のための実務的スキル◆

### 【連携に重要なポイント】

- ・連携のモデルがあること
- ・関わることによる具体的なメリットの提示

### 【取り組みを持続させるために必要なこと】

- ・財政的な支援
- ・拠点確保・拠点を複数作る
- ・世代交代に向けた世代を超えた取り組み
- ・助成金、寄付金、競争的資金を獲得しながら継続する必要

### 【その他御意見】

- ・コミュニケーションと人間力、寛容性と変化に柔軟に対応できる人